

# 「信仰は聞くことから始まる」

ローマ10：14-21

堀田修一 24・3・3

## I 宣べ伝える人がいなければ

「しかし、信じたことのない方を、どのように呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか」：14

1. 「信じたことのない方を、どのようにして呼べるのでしょうか」。私たちは、主を信じていなければ、主を信頼していなければ、「主よ。私を救って下さい。私をあわれんで下さい」と主の名を呼び、主に頼ることはできません。今、私たちは、辛い時に、主の名を呼び正直に祈り悩みを打ち明け主に頼れる恵みを心から感謝しましょう！
2. 「聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか」。私たちの一生の間、誰も私たちにイエス様の事、救い、福音を伝えてくれる人がなく、主の福音を聞いたことがなければ、決して主を信じることはできなかつたのです。私たちは、本日、改めて、神に感謝しましょう。神が、私たちに主の素晴らしい救いの福音を聞く機会を与えて下さった恵みを！その福音のみことばを信じる信仰をご聖霊が与えて下さった恵みを。※私が主を信じていない時の苦しむ友人との思い出。すべてを主に委ねます。
3. 「宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか」。神が、主の救い、福音、みことばを宣べ伝える人を私たちのもとに送ってくださらなければ、私たちは福音を聞くことが出来なかつたのです。神がわたしたちに、福音を伝える人々、教会、ラジオ、テレビの福音放送、三浦綾子さんや他の人々の本、福音版、トラクト等を与えて下さり心から感謝しましょう。※証し。常にある私の感謝。主が私の友を通して主の集会に導いて下さった恵み。私の心に「教会に行きたい」という志を与え、導かれた教会が、間違つた教えをする教会ではなく、聖書のみことばを忠実に語ってくださる教会であつた恵み。※私たちは、すべての教会を調べて、教会に行くわけではない。聖書的な教会に導かれるのは、ただ主の恵み。
4. 「遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか」：15。旧約時代は、神のことばを人々に宣べ伝えるために、神は預言者を遣わされました。新約時代は、使徒、教師、牧師、宣教師、伝道師、すべての信徒を福音をあらゆる人々に宣べ伝えるために遣わされ続けています。「神は言われる。終わりの日（主イエスがこの世に来られ、すべての人の罪のために十字架につけられ、復活され、天に上られ、御聖霊を世に降され、今、天でとりなしておられる新約時代は全体が終わりの時代、救いの完成の主の再臨を待ち望む終わりの時代）に、わたしは、すべての人にわたしの霊（ご聖霊）を注ぐ（ペンテコステ）。あなたがたの息子や娘は預言（神のことばを預かり神に遣わされて福音を伝える）し…その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊（福音を語る力を下さるご聖霊）を注ぐ。すると彼らは預言（神のことば、福音を語る）する。…主の御名を呼び求める者はみな救われる」（使徒2：17-21）。証：主を信じ救われた年に、若い私を神はある人に福音を伝えるように遣わされました。

5. 『なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は』と書いてあるようにです」：15。  
これはイザヤ52：7の引用。預言者イザヤは、バビロン捕囚からの解放という良い知らせを伝える者の足を、喜びと感謝の目をもって美しく描いている。それに対してパウロは、主の福音を伝える者たちに当てこのみことばを使っている。「美しいことか」の原語には、「美しい、愛らしい、こちよいい」等の意味があり、良い知らせを伝える者に対する感謝と好意の喜びをあらわしている。

Ⅱ すべての人が福音に従ったのではない。昔も今も、福音を聞いて、信じる人と信じない人がいる。

1. 「しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。『主よ。私たちが聞いたことを、だれが信じたか』とイザヤは言っています」：16。ユダヤ人には、旧約時代、将来、メシヤ（救い主）が与えられるという福音が伝えられ、新約時代は、ユダヤ人にも、異邦人（すべての国の人々）にも、主の救いの福音が伝えられています。聖書は現実を真実に伝えます。「しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません」。昔も今も、福音を伝えても、すべての人が主、救い主を信じるわけではない。逆に、すべての人が福音を拒否するのではない。御聖霊の働きで、主、福音を信じる人々も多く起こされている。感謝！私たちは自分の理解力で主を信じたのではなく、みことばと御聖霊により信じさせていただきました。感謝！

2. 「ですから、信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです」：17。信仰は、キリストについてのみことば、福音を聞くことによって、心の中でご聖霊が働かれ、始まり、生まれ、救われ、養われます。礼拝の中で、また日々、キリストのみことば、聖書のみことばを聞き、読み味わいましょう。主のみことばは、私たちの心に信仰を生み出し、養われます。

3. 「では、私は尋ねます。彼らは聞かなかったのでしょうか。いいえ。むしろ、『その響きは全地に、そのことばは、世界の果てまで届いた』のです」：18。イスラエル人は、福音を聞かなかったのでしょうか。いいえ、福音は、全地に、世界の果てまで届いています。

4. 「では、私は尋ねます。イスラエルは知らなかった（福音を悟らなかった）のでしょうか。まず、モーセがこう言っています。『わたしは、民でない者たちで、あなたがたのねたみを起こし、愚かな国民でああなたがたの怒りを燃えさせる』：19。神の民とは考えられていなかった異邦人（イスラエル以外の全ての国の人々、私達も）が主を信じ救われ神の民とされ、「愚かな国」と思われていた異邦人（イスラエル以外の全ての国の人々）が救われることによって、神の民であると誇っていたイスラエル人のねたみと怒りを神は誘発された。それは、イスラエル人の不信仰を反省させ、キリストの福音を熱く求めさせるため。

Ⅲ 恵み豊かな神は、イスラエル人も異邦人も、すべての国の人々の救いを願っておられる

1. 「また、イザヤは大胆にもこう言っています。『わたしを探さなかった者たちに、わたしは見出され、わたしを尋ねなかった者たちに自分を現した』：20。恵み豊かな神は、神を探し求めていなかった異邦人、私たちに、見出され（迷える羊である私たちを捜し、見出し、私たちが真の救いの神を見出すように導かれた）、真の神を尋ね求めなかった異邦人、私たちに神は近づいて

下さりご自分を私たちに現わしてくださいました。心から感謝し主を賛美しましょう。

2. 「そして、イスラエルのことをこう言っています。『わたしは終日、手を差し伸べた。不従順で反抗する民に対して』：21。神は、不信仰なイスラエル人を見捨てられたのでしょうか。その答えは「いいえ」です。神は、不従順で反抗するイスラエル人に対して、旧約時代も新約時代も救いの手を差し伸べ続けておられる。イスラエル人が主を信じて神の愛のふところに帰って来るのを「終日（原語：すべての日）」、一日中（別訳）、瞬時も休むことなく待っておられます。恵み深い神は、不従順で反抗的なイスラエル人も、主を信じた後、主から離れているクリスチャンをも、愛して、ご自分のもとに立ち返る日を、一日中、休むことなく御手を広げて待っておられます。私たちは、絶えず神に立ち返りましょう。今、主から離れている教会員、家族、知人、友人、イスラエル人が神に立ち返るように祈り続けましょう。いつも待っておられる神の大きな愛、忍耐を感謝しつつ。

3. 人を救うことができるのは神のみ、神の分。私たちに神が与えられた分、使命は、人々の救いのために祈り、愛を示し、関係作りをし福音を伝えることです。拒否している人には無理をせず偉大な神に委ね、神の時に心を開いて神を求め救われるように祈りましょう。賛美473番をもって賛美しましょう！